

釧網線（釧路～網走間）
第2期事業計画（アクションプラン）

釧網線（釧路～網走間）第2期事業計画（アクションプラン）

目 次

- 序章 . . . 1ページ
 - (1) はじめに
 - (2) 策定経緯
- 第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について . . . 2ページ
- 第2章 基本的事項 . . . 2～3ページ
 - (1) 位置づけ
 - (2) 推進母体
 - (3) その他
- 第3章 釧網線のおかれた状況 . . . 3～4ページ
 - (1) 関係市町村の状況
 - (2) 釧網線の状況
 - (3) これまでの協議状況
- 第4章 取組方針 . . . 4～5ページ
 - (1) 目的
 - (2) 基本指標
- 第5章 具体的取組内容 . . . 5～6ページ
 - (1) 基本方針
 - (2) 具体的取組内容
- 第6章 今後の進め方 . . . 7ページ
- 別冊 第1期計画1年目報告書
- 別添資料

序章（はじめに）

(1) はじめに

この計画は、釧網線（釧路～網走間）を維持・活性化するため、3年間でJ R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む内容を事業計画（アクションプラン）としてまとめたものである。

(2) 策定経緯

- 厳しい経営状況におかれたJ R北海道は、平成28（2016）年11月に単独では維持困難な線区を公表して、地域の関係者と協議を行ってきた。
- このような中、平成30（2018）年7月国土交通省は、J R北海道に対し、「J R北海道の経営改善に向けた取組」を着実に進めるよう監督命令を発出した。
- 監督命令に基づき、令和元（2019）年度及び令和2（2020）年度を「第1期集中改革期間」とし、J R北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組むとともに、持続的な鉄道網の確立に向け徹底的な検討を行うため、事業計画（以下「第1期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定した。
- 令和2（2020）年8月5日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証結果を国土交通省へ報告し、着実に取組が行われていることが確認された。
- 令和2（2020）年12月12日、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）2年目第2四半期までの取り組み状況を国土交通省へ報告した。
- こうした取り組みを踏まえ、令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までの「第2期集中改革期間」に取り組む事業計画（以下「第2期事業計画（アクションプラン）」という。）を策定することとした。

第1章 第1期事業計画（アクションプラン）の検証について

監督命令に基づき、J R北海道と地域の関係者は、第1期事業計画（アクションプラン）1年目の検証を行った。なお、報告書は別冊のとおりである。2年目の検証は令和3年度に行う。

第2章 基本的事項

(1) 位置づけ

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、J R北海道の徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みを構築するために、監督命令を受けたJ R北海道と地域の関係者が協力しながら、「監督命令」で命じられた「第2期中改革期間」の3年間に具体的に取り組む内容を記載したものである。
- 将来に向けて線区の持続性を確保するため、この計画を共に取り組むことを通して、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。
- J R北海道と地域の関係者は、取組の結果を毎年度検証し、最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証も行う。

(2) 推進母体

- J R北海道を代表とする委員会を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置し、地域の関係者の協力を得ながら取り組む。
- このため、第2期事業計画（アクションプラン）の推進を目的とする「釧網線アクションプラン実行委員会」（以下「委員会」という。）及び事務レベルの「幹事会」を第1期事業計画（アクションプラン）に引き続き設置する。

※ 釧網線アクションプラン実行委員会及び幹事会について

- ① 取組主体 J R北海道（委員会事務局）
- ② 関係者
 - 「J R釧網本線維持活性化沿線協議会」構成市町村の首長（委員会）、担当者（幹事会）
 - ・ 沿線市町村（駅のある市町村）
釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、清里町、斜里町、小清水町、網走市
 - ・ 周辺市町村（釧網線の周辺に位置し関係する市町村）
鶴居村
 - 外部事業者
 - ・ WILLER 株式会社
 - 広域行政機関
 - ・ 北海道
 - オブザーバー
 - ・ 国土交通省

(3) その他

- 釧網線の線区としての区間は東釧路～網走間であるが、この計画での取組区間は釧路～網走間とする。

第3章 釧網線のおかれた状況

(1) 関係市町村の状況

- 別添資料 1～3 ページのとおり

(2) 釧網線の状況

- 別添資料 4～18 ページのとおり

(3) これまでの協議状況

- 平成 28 (2016) 年 11 月 18 日 J R 北海道が「当社単独では維持困難な線区」を公表した後、関係者の間で、釧網線における持続的な鉄道網のあり方について議論が行われてきた。
- J R 北海道は、釧網線を維持していきたいと考えているものの、単独では維持することが困難な状況にあることから、持続可能な交通体系のあり方について地域の皆様に問題提起を行った。
- 北海道は、「鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議」を開催し、地域での議論を踏まえて「北海道の将来を見据えた鉄道網（維持困難線区）のあり方について」をとりまとめるとともに、平成 30 (2018) 年 3 月にはこれを踏まえて「北海道交通政策総合指針」を策定した。
- これらの中では、釧網線は次のとおり位置づけられた。

① 釧網線の現状

- ・ 沿線に 4 つの国立、国定公園や世界遺産・知床を有し、世界的に貴重な釧路湿原を間近に体感できるなど、来道外国人観光客の鉄道利用が増えつつある中、道東方面の観光振興にとって大きな可能性を有する路線である。沿線地域は国の広域観光周遊ルートに指定されているが、並行する高規格幹線道路の計画はなく、今後、インバウンド等による交流人口の飛躍的な拡大に向け、本線区が重要な役割を果たすことが期待される。
- ・ 通学や通院など住民の日常生活で利用されているが、一般利用の少ない区間もある。

② 釧網線のあり方について

- ・ 観光客の利用だけで鉄道を維持していくことは難しいことから、関係機関が一体となって、観光路線としての特性をさらに発揮するよう取組を行うとともに、地域における負担等も含めた検討・協議を進めながら、路線の維持に最大限努めていくことが必要と考える。

- また、平成 29 (2017) 年 3 月にはオホーツク圏活性化期成会釧網本線部会、平成 29 (2017) 年 4 月には釧路地方総合開発促進期成会 J R 花咲線・釧網線特別委員会、平成 30 (2018) 年 3 月には合同の J R 釧網本線維持活性化沿線協議会が設置され、地域における釧網線の維持存続に向けた協議が進められた。
- 平成 30 (2018) 年 7 月 27 日には、国土交通省から J R 北海道に対して「J R 北海道の経営改善について」監督命令が発出され、J R 北海道の経営改善に向けた取組を前提として鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区に対する方針が示された。
- 監督命令は、J R 北海道に対し、「維持する仕組み」を構築していくための前提として、令和元 (2019) 年度及び令和 2 (2020) 年度を「第 1 期集中改革期間」として、当社と地域の関係者が一体となって、利用促進や経費節減等に取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、2 次交通を含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを命じた。
- J R 北海道は、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、第 1 期事業計画(アクションプラン)を策定し、利用促進と経費節減等に取り組み、四半期毎に進捗状況の確認などを行った。
- 監督命令は、「第 1 期集中改革期間」の検証を行い、着実な取組が行われていることを前提として、令和 3 (2021) 年度から令和 5 (2023) 年度までの「第 2 期集中改革期間」に移行するとともに、「第 1 期集中改革期間」の検証結果を「第 2 期集中改革期間」における取組に反映させることを命じている。
- J R 北海道は、監督命令を厳粛に受けとめ、北海道交通政策総合指針を尊重する所存であり、釧網線を維持するため、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、「第 2 期集中改革期間」の取組を第 2 期事業計画(アクションプラン)として策定し履行する。

第 4 章 取組方針

- J R 北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うために、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、利用促進、経費節減などの取組を進める。
- 監督命令に基づき事業の抜本的な改善方策の検討に向け、J R 北海道と地域の関係者は、最終年度(令和 5 (2023) 年度)には総括的な検証を行う。

(1) 目的

- 釧網線を持続的に維持していくためには釧網線の収入を増やし経費を節減することが必要不可欠である。
- このため、J R北海道と地域の関係者は、この計画を進めることにより、収支改善に資する具体的な取組を進める。
 - ※ なお、収支改善については、この計画による具体的取組以外にも長期的な利用者の減少傾向や設備投資による減価償却費の増減など、様々な変動要素について分析し、状況を把握することとする。

(2) 基本指標

- 第1期計画開始前の基本指標は次のとおりである。基本指標とあわせ関連指標の推移も確認しながら進める。
 - ① 収支状況（東釧路～網走間）
平成29（2017）年度（第1期計画開始前） △1,497百万円
（営業収益286百万円、営業費用1,783百万円）
 - ② 輸送密度（東釧路～網走間）
平成29（2017）年度（第1期計画開始前） 374人/日
 - ※ 関連指標
駅別乗車人員、列車別乗車人員、駅間別乗車人員、駅間通過人員、定期券発売枚数 等
- 釧網線の基本指標について、長期減少傾向、新型コロナウイルスの影響がある中でも、第1期計画開始前（平成29（2017）年度）と同水準を維持したいと考え、最終年度（令和5（2023）年度）の目標とする。検証の際は、以下の基本指標とともに、駅間輸送人員や発売実績などの関連指標も参考とする。
 - ① 収支状況（目標）
令和5（2023）年度（第2期計画終了時期） △1,497百万円
 - ② 輸送密度（目標）
令和5（2023）年度（第2期計画終了時期） 374人/日

第5章 具体的取組内容

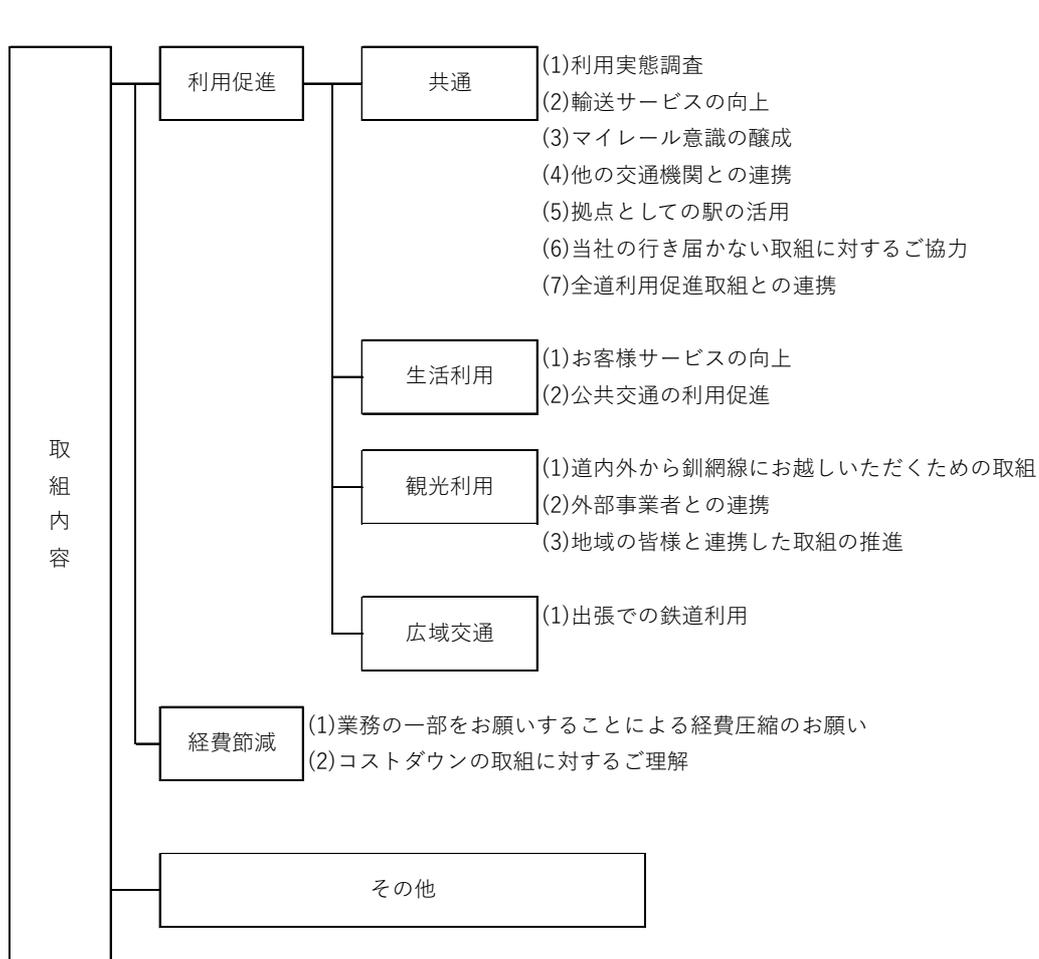
(1) 基本方針

- 道内外から釧網線にお越しいただくための取組や、外部事業者との連携などにより、観光線区としての線区特性を最大限発揮する。
- 利用促進、経費節減の取組を推進し、線区の収支改善を図る。

- 日常の生活利用の観点から地域住民の皆様へのマイレール意識の醸成を進める。

(2) 具体的取組内容

- 取組内容の構成は以下のとおり。また、具体的取組は別紙のとおりである。
 - ・ 「利用促進」「経費節減」の二つの観点から整理する。
 - ・ 「利用促進」については、ご利用形態に即して「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」に分類して整理する。
 - ・ それぞれの取組内容について事業主体と具体的な取組内容を記述する。



第6章 今後の進め方

- 第2期事業計画（アクションプラン）は、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む。
- PDCAサイクルに基づき必要な見直しを行いながら進める。具体的には、基本指標、関連指標や計画に盛り込まれた取組内容に基づき、利用促進や経費節減に向けた取組の実施結果、指標の推移状況について、委員会・幹事会において状況報告・意見交換や取組状況の検証を行う。
- こうした状況報告・意見交換や取組状況の検証を踏まえ、必要に応じて第2期事業計画（アクションプラン）の見直しを行うとともに、基本指標についても年度実績をもとに必要により見直しを検討する。
- 「第2期集中改革期間」の最終年度（令和5（2023）年度）には総括的な検証を行う。

		第1期	第2期集中改革期間												令和6 (2024) 年度
		令和2 (2020) 年度	令和3(2021)年度				令和4(2022)年度				令和5(2023)年度				
		IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
P	事業計画完成・公表	●													
D	取組の実施		←—————→												
	状況報告・意見交換		・	・	・	・									
C	取組状況の検証(令和3(2021)年度)		・	・	・	●									
A/P	必要な見直し		・	・	・	●									
D	取組の実施						←—————→								
	状況報告・意見交換						・	・	・	・					
C	取組状況の検証(令和4(2022)年度)						・	・	・	●					
A/P	必要な見直し						・	・	・	●					
D	取組の実施										←—————→				
	状況報告・意見交換										・	・	・	・	
C	取組状況の検証(令和5(2023)年度)										・	・	・	●	
C	総括的な検証										・	・	・	●	
A	持続可能な交通体系														————→

●：実行委員会、・：幹事会

P (PLAN)：計画（目標及び計画の策定）

D (DO)：実行（取組の実施）

C (CHECK)：点検・評価（取組状況や効果の把握・評価（実行委員会での意見を踏まえ改善する））

A (ACTION)：見直し（取組の改善・見直し（年度毎に利用促進策や経費節減策等を見直す））

釧網線 具体的取組

I. 利用促進 1 共通

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 利用実態調査	統計値では把握しがたいお客様の層等を掌握する実態調査の実施	JR北海道 全自治体									
(2) 輸送サービスの向上	限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様のご意見をお聞きする意見交換の実施	JR北海道 全自治体									
(3) マイレール意識の醸成	①JR北海道問題に対する関心を高める取組										
	ア. 広報誌やホームページ等を活用し鉄道特集記事を掲載	全自治体 その他									
	イ. マイレール運動の提唱	自治体									
	②「COOL CHOICE」の取組みやノーマイカーデー等実施による鉄道利用促進	自治体									
	③リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について 利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道									
	④友好都市からの小学生訪問団が、社会教育の一環として釧網線に乗車、線区に関する説明やPRを行う	自治体									
	⑤小学生による駅舎ペインティング	自治体									
	⑥生活科見学の一環としてJR体験乗車の実施	自治体									
⑦幼稚園児によるJR体験乗車	自治体										

取組内容		事業主体	スケジュール							
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(4) 他の交通機関等との連携	バス、タクシー等との相互連携の推進	全自治体 JR北海道 その他								
	ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡の改善									
(5) 拠点としての駅の活用	①地域の皆様のご協力による観光案内所・売店・飲食店等の設置									
	ア. 観光案内所	自治体 JR北海道								
	イ. 売店	自治体 JR北海道								
	ウ. 飲食店等	自治体 JR北海道								
	②駅舎の整備									
	ア. 待合室、ホーム屋根、トイレ等の駅設備の新設・改修	自治体 JR北海道								
	イ. Wi-Fi環境の維持・管理	自治体 JR北海道								
	③駅前の整備	自治体								
	駅前広場の整備									
	④駅の活用									
	ア. 特色ある駅舎の整備	JR北海道 自治体								
	イ. 駅の空スペースを事務所・会議室等として開放し、鉄道利用を促す取組	自治体								
	⑤駅を中心としたにぎわい創出	自治体 その他								
	駅周辺に店舗・公共施設等の設置の拡大									

取組内容		事業主体	スケジュール					
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
(6) 当社の行き届かない取組 に対するご協力	駅的环境美化の取り組み	自治体 その他						
(7) 全道利用促進取組との連携	北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 JR北海道						

2 生活利用

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用										
	ア. ニーズ調査の実施	JR北海道									
	イ. 実態調査を踏まえた利用促進策の検討	JR北海道									
	ウ. 「スマホ定期券」の利用サービスの利用者数拡大	JR北海道									
	②サービスレベルの向上 大規模輸送障害発生時等の運休等の情報内容の充実	JR北海道									
(2) 公共交通の利用促進	①マイレール意識の醸成に向け鉄道利用をよびかける とともに乗車運賃等への助成										
	ア. 乗車運賃等の助成制度の導入	自治体									
	イ. 釧網線応援企画	自治体									
	②学生の通学定期券購入に対する助成制度の検討	自治体									

3 観光利用

取組内容		事業主体	スケジュール								
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 道内外から釧網線にお越し いただくための取組	①観光列車の運行										
	ア. くしろ湿原ノロッコ号の利用促進	JR北海道 自治体 その他									
	イ. SL冬の湿原号の利用促進	JR北海道 自治体 その他									
	ウ. 流氷物語号の利用促進	JR北海道 自治体 その他									
	②商品造成やキャンペーンの実施										
	ア. JAL/JR北海道 ひがし&きた北海道キャンペーンの実施	JR北海道									
	イ. LCCとタイアップしたフリーパスの設定	JR北海道									
	ウ. 鉄道を利用する観光客への助成	自治体 その他 JR北海道									
	エ. 駅を発着し観光地・観光施設を巡るバスの運行	自治体 その他									

取組内容		事業主体	スケジュール					
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
	③閑散期の需要創出 「フリーパス」等を活用した釧網線利用促進の取組	JR北海道						
	④PR活動の実施 HP等への釧網線を利用した旅行記事の掲載	JR北海道						
	⑤観光案内所の充実	自治体						
	⑥宣伝協力							
	ア. 札幌駅や新千歳空港駅等での宣伝協力	JR北海道 全自治体						
	イ. 管内各駅での宣伝協力	JR北海道						
	⑦その他 スマホを使った観光案内・外国語対応の実施	JR北海道						
(2) 外部事業者との連携	観光鉄道としての利用促進の取組	全自治体 WILLER JR北海道 その他						
(3) 地域の皆様と連携した取組の推進	①観光資源の積極的な活用	自治体 JR北海道 その他						
	②観光列車等利用促進や、駅装飾等にぎわいの創出に 取り組む市民団体等に対する助成	自治体 その他						
	③沿線でのイベント・施設などに関する情報共有や利用の 働きかけ	自治体						
	④ヘルシーウォーキングやエコツーリズム推進に伴う ロングトレイル構想による利用促進	JR北海道 自治体						

取組内容		事業主体	スケジュール							
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	⑤釧網線とアクティビティをセットしたサービスの展開 温泉・カヌー体験等	自治体 JR北海道 その他								
	⑥鉄道を利用した長期滞在者との交流事業	自治体								
	⑦「オホーツクSEA TO SUMMIT」の開催において、釧網線を活用したコース設定により、釧網線のPRと利用促進を図る	自治体 その他								
	⑧ふるさと納税返礼品	自治体								
	⑨スタンプラリー&鉄道まつり	自治体 その他								
	⑩「THE ROYAL EXPRESS～HOKKAIDO CRUISE TRAIN」沿線におけるおもてなし	全自治体 JR北海道								
	⑪「釧網線」の利用促進を目的にしたツアーの実施	自治体								

4 広域交通

取組内容		事業主体	スケジュール						
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	
出張等での鉄道利用	官公庁、域内事業者等による、出張等での鉄道利用の促進	全自治体 その他							

Ⅱ. 経費節減

取組内容		事業主体	スケジュール							
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談	①業務委託のご相談 観光案内や通訳業務等	自治体 その他								
	②業務のお手伝いのお願い									
	ア. 無人駅の施設管理	自治体								
	イ. 除雪係員確保のお願い等	自治体								
	ウ. 駅前除雪	自治体								
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①極端にご利用の少ない駅の廃止についての各自治体との協議	自治体 JR北海道								
	②極端にご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議	自治体 JR北海道								
	③ご利用の少ない駅トイレの利用停止についての各自治体との協議	自治体 JR北海道								

Ⅲ. その他

取組内容		事業主体	スケジュール						
			R3(2021)年度		R4(2022)年度		R5(2023)年度		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	①あるべき交通体系について地域の皆様と検討	全自治体 JR北海道							
	②2次交通との連携に向けた検討								
	ア. 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた検討	全自治体 JR北海道 その他							
	イ. 地域公共交通計画の策定 鉄道、バスなどの連携による地域に最適な公共交通の検討	自治体 JR北海道 その他							
(2) 街づくりについての検討	駅都心部まちづくりの検討	自治体 JR北海道 その他							
(3) その他地域の皆様と一体となった取組	相互連携の検討	全自治体 JR北海道 その他							
(4) 鉄道設備を維持するための取り組みの検討	鉄道設備を維持するため、集中工事等を実施する仕組み作りを関係自治体と協議	全自治体 JR北海道							

アクションプラン
第1期計画1年目報告書
(令和元年度)
釧網線

令和2年8月

釧網線アクションプラン実行委員会

1. はじめに

- **本報告書は、平成31年4月9日に公表されたアクションプラン第1期計画1年目の取組状況について、釧網線アクションプラン実行委員会が検証を行い、その結果を取りまとめたものである。**
- **検証結果を踏まえた上で、主要施策やKPI指標について必要な見直しを行い、より効果的な対応を検討していく。**

2. 基本指標・関連指標の検証

(1) 基本指標の概況

- ・線区別収支は、▲1,613百万円となり基準とした平成29年度より116百万円悪化した。

営業収益は「くしろ湿原ノロッコ号」のご利用増加等により収入が対前年16百万円増加した304百万円（対前年106%）となった。

営業費用は「線路集中メンテナンス日」を設定し、マクラギ木交換等実施したこと等により181百万円増加した1,917百万円（対前年110%）となった。営業損失は対前年165百万円拡大した

- ・輸送密度は372人/日となり基準とした平成29年度より2人/日減少した。

▼令和元年度基本指標の収支状況

項目	平成29年度 (基準)	令和2年度 (目標)	令和元年度 (実績)	対目標	目標 達成
線区別収支	▲1,497百万円	▲1,497百万円	▲1,613百万円	▲116百万円	未達成
輸送密度	374人/日	374人/日	372人/日	▲2人/日	ほぼ達成

3. 具体的取組の検証

(1) 進捗状況

- ・アクションプラン具体的取組の進捗状況は、地域の皆様のご理解とご協力を頂きながら取り組み、目標達成「◎」が9%、達成見込「○」が72%、一部達成「△」が13%、見込無「×」5%、未評価「－」が2%となった。
- ・具体的取組、検証結果等の詳細は別紙を参照。

▼令和元年度アクションプラン進捗状況

進捗状況	件数	割合	コメント
◎	6	9%	「マイレール運動の提唱」、「乗車運賃助成」取組は2019年度中に目標達成。
○	46	72%	「くしろ湿原ノロッコ利用増」、「SL釧路湿原号利用増」「外部事業者との連携」、「小学生による駅舎ペインティング」は達成見込。
△	8	13%	「流氷物語号の利用増、運行に対するご協力」、「スマホ定期券の活用」、「あるべき交通体系の検討」が一部達成。
×	3	5%	「業務委託のご相談/乗車券の発売」、「中長期的な経費削減施策の検討」が見込無。
－	1	2%	「地域の皆様とダイヤ検討」が未評価。
合計	64	100%	

4. 令和元年度象徴的な取組について①

取組内容	取組状況	目標達成
<p>(1)くしろ湿原ノロッコ号の利用増、運行に対するご協力</p>	<p>夏の繁忙期に標茶高校生がボランティアガイドを行うなど各種おもてなしのほか、釧路町がふるさと納税返礼品にノロッコ号のきっぷを採用するなど、地域の皆様と一体となった取組みが効果を生み、令和元年度利用人員は86,000人(対前年112%)となった。</p>	<p>○</p>
	<p>くしろ湿原ノロッコ号30周年イベントの締めくくりとして、10月14日(今年度の運行最終日)塘路駅で、標茶町長とご当地キャラクターが、お出迎え・お見送り・ノベルティ配布を行い、ノロッコ号の利用による再訪をPRした。</p>	



(令和元年7月30日撮影・くしろ湿原ノロッコ2号車内)



(令和元年10月14日撮影・塘路駅)

4. 令和元年度象徴的な取組について②

取組内容	取組状況等		目標達成
(2) SL冬の湿原号利用増、運行に対するご協力	<p>地元吹奏楽団によるお出迎え演奏会の実施や地元特産品を販売するイベント、標茶町内の飲食店や温泉施設を巡る無料送迎の実施等地域の皆様と一体となった取組みによって令和元年度利用人員は9,500人(対前年102.1%)となった。</p>	 <p>(令和2年1月25日撮影・標茶駅)</p>	○
(3) 流水物語号の利用増、運行に対するご協力	<p>観光ボランティアによる沿線案内や乗車されたお客様へ特製ステッカーの配布、車内販売の実施やお見送り、お出迎えイベントの実施等地域の皆様が主体となって利用促進の取組等を行った。令和元年度利用人員はインバウンド客の減少等の影響により7,500人(対前年75.3%)となった。</p>	 <p>(令和2年2月1日撮影・網走駅)</p>	△

4. 令和元年度象徴的な取組について③

取組内容	取組状況等	目標達成
<p>(4) 観光鉄道としての利用促進の取組</p>	<p>観光鉄道としての利用促進のため、WILLER(株)、関係自治体、地域の事業者、当社が協力して「ひがし北海道ネイチャーパス」を発売し、釧網線から沿線観光資源にシームレスにつなぐ「観光型MaaS」に取り組んだ。</p>	 <p>(令和元年8月19日撮影・摩周駅)</p> <p style="text-align: center;">○</p>
<p>(5) 「オホーツクSEA TO SUMMIT」の開催において釧網線を活用したコース設定により、釧網線のPRと利用促進を図る。</p>	<p>今年度オホーツクエリアで初開催された「SEA TO SUMMIT」は、地域の皆様と連携し、大会コースに釧網線が組み込まれた。6月23日は専用臨時列車を運転し、大会参加者と関係者約130名が利用した。また、列車内において観光ボランティアによる見どころを紹介する等釧網線のPRを行った。</p>	 <p>(令和元年6月23日撮影・浜小清水駅)</p> <p style="text-align: center;">○</p>

4. 令和元年度象徴的な取組について④

取組内容	取組状況等	目標達成
<p>(6)小学生による駅舎ペインティング</p>	<p>自治体、学校関係者、地元の皆様等に協力頂き、令和元年9月30日、美留和小学校の児童7名が美留和駅舎のペインティングを行った。また、実施前に釧網線の現状や見どころを知ってもらうためのJR出前教室を開催した。</p>	 <p>(令和元年9月30日撮影・美留和駅)</p> <p style="text-align: center;">○</p>
<p>(7)中長期的に鉄道設備を維持するため、集中工事を実施する仕組み作りを関係自治体と協議し、行う</p>	<p>令和元年10月21日～11月1日、緑駅～知床斜里駅間で、一部列車を運休して線路集中メンテナンスを行い、約4,000本の木製マクラギを交換した。実施にあたって自治体広報誌を活用し、住民向けに工事実施等周知を行った。</p>	 <p>(令和元年10月21日撮影・札弦駅～清里町駅間)</p> <p style="text-align: center;">○</p>

5. 令和元年度取組の検証

- ・ JR北海道と地域の皆様が一体となってアクションプランに取り組み、効果をあげることができた。
- ・ 釧網線のアクションプラン実行委員会にはWILLERも参画しており、WILLERと連携した取り組みが功を奏した。
- ・ 観光列車の取組やキャンペーンの展開などに関係者一体となって取り組み、観光線区としての線区特性を発揮した。
- ・ 線路の持続性を維持するため「線路集中メンテナンス日」を設定し、集中工事を行い、安全性向上を図った。
- ・ 線区別収支は基準とした平成29年度の目標値を▲116百万円下回り、未達成の状況にある。輸送密度は、基準とした目標をほぼ達成する状況にある。
- ・ 令和2年度も観光線区の強みを生かした取り組みを進めるとともに、第2期集中改革期間に向けて線区特性を活かした施策の検討を進めたい。

別紙

I. 利用促進

1 共通

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 利用実態調査	統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するため実態調査の新設	JR北海道 全自治体	○										
(2) 輸送サービスの向上	限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様のご意見をお聞きする意見交換の実施	JR北海道 全自治体	—										
(3) マイレール意識の醸成	①JR北海道問題に対する関心を高める取組												
	ア. 広報誌やホームページ等を活用し鉄道特集記事を掲載	全自治体 その他	○										
	イ. マイレール運動の提唱	自治体	◎										
	ウ. シンポジウム、意見交換会等の実施	全自治体 その他	△										
	エ. フォトコンテスト等の実施	全自治体	◎										
	②「COOL CHOICE」の取組みやノーマイカーデー等実施による鉄道利用促進	自治体	○										
	③リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等について 利用者にご理解いただく資料の作成	JR北海道	○										
④出前教室等の実施 教育現場にJR社員が赴く出前勉強会や駅の課外授業受け入れ等で線区に関するPRを行う	JR北海道 全自治体	○											

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
	⑤小学生による駅舎ペインティング	自治体	○										
	⑥生活科見学の一環としてJR体験乗車の実施	自治体	○										
(4) 他の交通機関等との連携	バス、タクシー等との相互連携の推進 ダイヤ改正時のダイヤの相互連絡の改善	全自治体 JR北海道 その他	○										
(5) 拠点としての駅の活用	①地域の皆様のご協力による観光案内所・売店・飲食店等の設置	自治体 JR北海道	○										
	②駅舎の整備												
	ア. 待合室、ホーム屋根、トイレ等の駅設備の新設改修	自治体 JR北海道	○										
	イ. Wi-Fi環境の整備・管理	自治体 JR北海道	○										
	③駅前の整備												
	駅前広場の整備	自治体	○										
	④駅の活用												
ア. 特色ある駅舎の整備	JR北海道 自治体	○											
イ. 駅の空スペースを事務所・会議室等として開放し、鉄道利用を促す取組	自治体	◎											
⑤駅を中心としたにぎわい創出													
駅周辺に店舗・公共施設等の設置の拡大	自治体 その他	○											
(6) 当社の行き届かない取組に対するご協力	駅的环境美化の取り組み	自治体	○										
(7) 全道利用促進取組との連携	北海道鉄道活性化協議会との連携	全自治体 JR北海道	○										

2 生活利用

取組内容		事業主体	目標達成	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) お客様サービスの向上	①「スマホ定期券」の活用	JR北海道	△										
	②サービスレベルの向上 ・大規模輸送障害発生時等の運休等の情報内容の充実	JR北海道	○										
(2) 公共交通の利用促進	①マイレール意識の醸成に向け鉄道利用をよびかけるとともに乗車運賃等への助成	自治体	◎										
	②学生の通学定期券購入に対する助成制度の検討	自治体	○										

3 観光利用

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール										
			H29		H30		R1		R2				
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期			
(1) 国内外から釧網線にお越しいただくための取組	①商品造成やキャンペーンの実施												
	ア. 夏・冬の道東キャンペーンの実施、利用増	JR北海道	○										
	イ. 観光型旅行商品の造成「道東周遊紀行」の継続、増売	JR北海道	○										
	ウ. LCCと釧網本線をセットした商品の継続・増売	JR北海道 その他	○										
	エ. 鉄道を利用する観光客への助成	自治体 JR北海道	○										
	オ. 駅を発着し観光地・観光施設を巡るバスの運行	自治体 その他	○										
	②観光列車の運行												
	ア. くしろ湿原ノロッコ号の利用増、運行に対するご協力	JR北海道 自治体 その他	○										
イ. SL冬の湿原号の利用増、運行に対するご協力、SL協議会開催	JR北海道 自治体 その他	○											

取組内容		事業主体	目標達成 (第3四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
	ウ. 流氷物語号の利用増、運行に対するご協力	JR北海道 自治体 その他	△										
	③閑散期の需要創出 「フリーパス」等を活用した釧網線利用促進の取組	JR北海道	○										
	④宣伝協力 札幌駅や新千歳空港駅等での宣伝協力	JR北海道 全自治体	○										
	⑤その他 ア. スマホを使った観光案内・外国語対応の実施	JR北海道	○										
(2) 外部事業者との連携	観光鉄道としての利用促進の取組	全自治体 WILLER JR北海道 その他	○										
(3) 地域の皆様と連携した取組の推進	①観光資源の積極的な活用	自治体 JR北海道 その他	○										
	②観光列車等利用促進や、駅装飾等にぎわいの創出に取り組む市民団体等に対する助成	自治体 その他	△										
	③沿線でのイベント・施設などに関する情報共有や利用の働きかけ	全自治体 その他	○										
	④ヘルシーウォーキングやエコツーリズム推進に伴うロングトレイル構想による利用促進	JR北海道 自治体	○										
	⑤釧網線とアクティビティをセットしたサービスの展開 温泉・カヌー体験等	JR北海道 その他	○										
	⑥鉄道を利用した長期滞在者との交流事業	自治体	◎										
	⑦「オホーツクSEA TO SUMMIT」の開催において、釧網線を活用したコース設定により、釧網線のPRと利用促進を図る	自治体 その他 JR北海道	○										

取組内容	事業主体	目標達成	スケジュール									
			H29		H30		R1		R2			
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
⑧ ふるさと納税返礼品等	自治体	○										
⑨ ふるさと納税者特別企画の実施	自治体	○										
⑩ 仮想道の駅フェスティバルの実施	自治体	◎										
⑪ スタンプラリー&鉄道まつり	自治体 その他	◎										

4 広域交通

取組内容		事業主体	目標達成 (第3四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) 出張等での鉄道利用	官公庁、域内事業者等による、出張等での鉄道利用の促進	全自治体 その他	○										

II. 経費節減

取組内容	事業主体	目標達成 (第3四半期)	スケジュール								
			H29		H30		R1		R2		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
(1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮のご相談	①業務委託のご相談										
	ア. 乗車券の発売	自治体	×								
	イ. 観光案内や通訳業務 等	その他	○								
	②業務のお手伝いのお願い										
	ア. 無人駅の施設管理	自治体	○								
	イ. 除雪係員確保のお願い 等	自治体	○								
	ウ. 駅前除雪	自治体	○								
(2) コストダウンの取組に対するご理解	①極端にご利用の少ない駅の廃止について各自治体との協議	自治体 JR北海道	◎								
	②極端にご利用の少ない踏切の見直しについて各自治体との協議	自治体 JR北海道	△								

Ⅲ. 第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討

取組内容		事業主体	目標達成 (第3四半期)	スケジュール									
				H29		H30		R1		R2			
				上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期		
(1) あるべき交通体系について徹底的な検討	あるべき交通体系について地域の皆様と検討の開始	全自治体 JR北海道	△										
	②2次交通との連携に向けた検討 ア 鉄道とバスの連携による相互に成り立つ仕組み作りに向けた検討の開始	全自治体 JR北海道 その他	×										
	イ 地域公共交通網形成計画の策定 鉄道、バスなどの連携による地域に最適な公共交通の検討	自治体 JR北海道 その他	○										
(2) 中長期的な利用促進施策についての検討	中長期的視野に立った利用促進施策の検討	全自治体 JR北海道 その他	×										
(3) 中長期的な経費節減策についての検討	中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性についての検討	全自治体 JR北海道 その他	×										
(4) 中長期的な街づくりについての検討	駅を中心とした都心部まちづくりの検討	自治体 JR北海道 その他	○										
(5) その他地域の皆様と一体となった取り組み	相互連携の検討	全自治体 JR北海道 その他	△										
(6) 中長期的に鉄道設備を維持するための取組の検討	中長期的に鉄道設備を維持するため、集中工事等を実施する仕組み作りを関係自治体と協議し行う	全自治体 JR北海道 その他	○										

【別添資料】

(1) 関係市町村の状況

①総人口の推移[年齢別]	1ページ
②市町村別人口の推移	2ページ
③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移	3ページ

(2) 釧網線の状況

①沿線地図	4ページ
②沿革	5ページ
③諸元	5ページ
④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)	6ページ
⑤定期列車本数の推移	7ページ
⑥駅別乗車人員	8ページ
⑦列車別乗車人員	9ページ
⑧駅間別乗車人員	10ページ
⑨駅間通過人員	11ページ
⑩定期券発売枚数	12ページ
⑪線区別収支	13ページ
⑫土木構造物の概況	14～16ページ
⑬土木構造物の大規模修繕・更新費用	17ページ
⑭車両の更新費用	18ページ

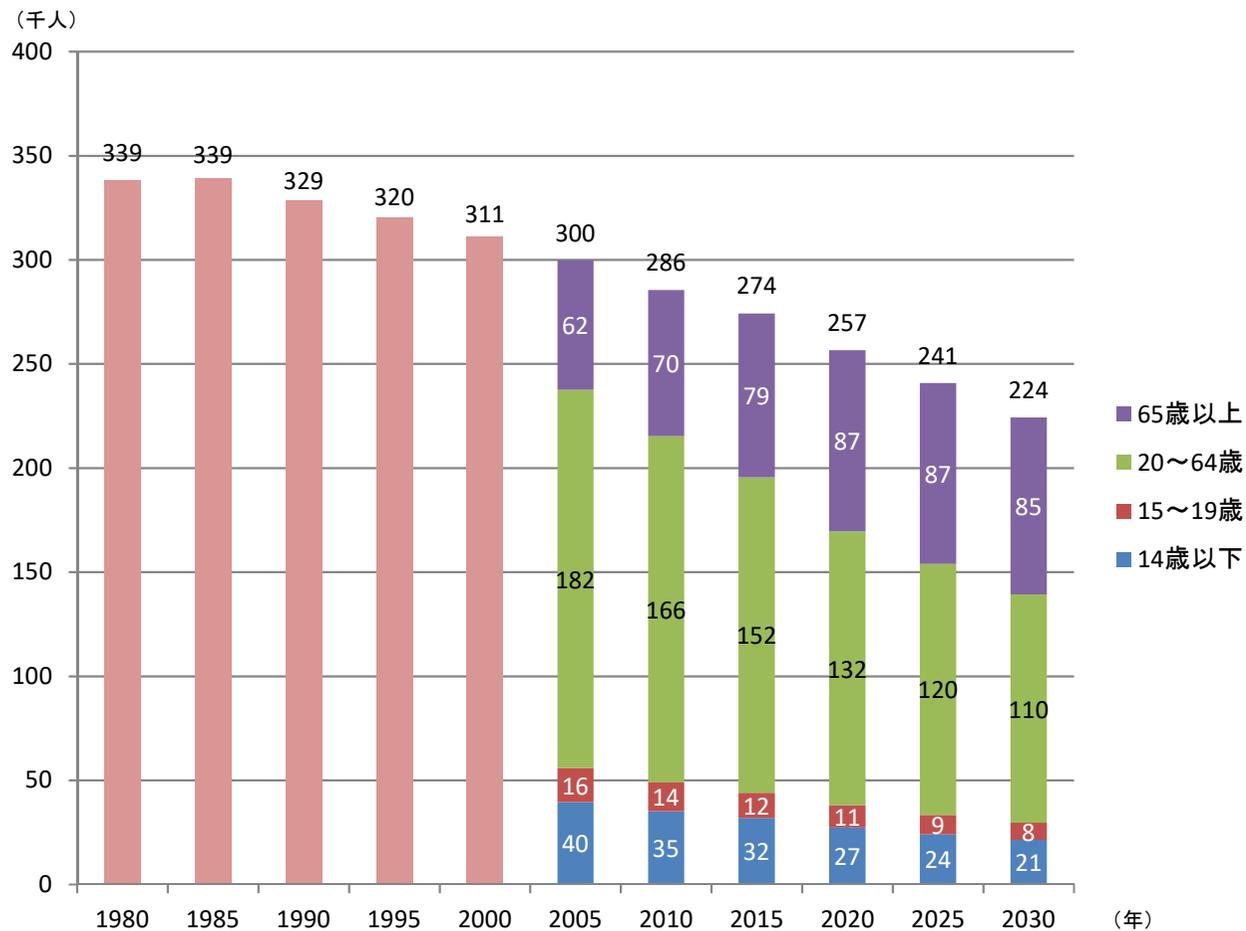
注)

各データとも令和元年度

- ④輸送密度 : ご利用されるお客様の1日1kmあたりの平均人数
- ⑥駅別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅ごとの人数(直近5年間の平均)
- ⑦列車別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の列車ごとの人数
- ⑧駅間別乗車人員 : 特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅間ごとの人数
- ⑨駅間通過人員 : きっぷの発売状況に基づく、1日あたりのお客様の駅間ごとの人数
- ⑩定期券月平均発売枚数 : 1か月あたりの各駅相互間の通勤・通学定期券の発売枚数

(1) 関係市町村の状況

① 総人口の推移〔年齢別〕



(出典)
 ・2000年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 ・2005年～2015年 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

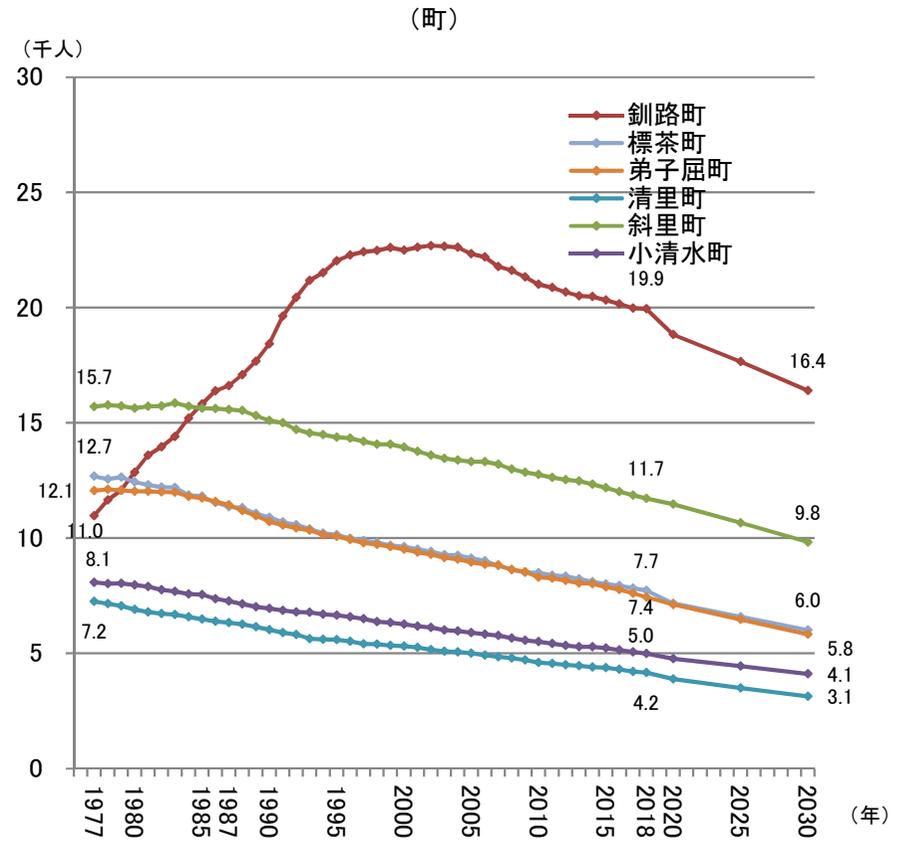
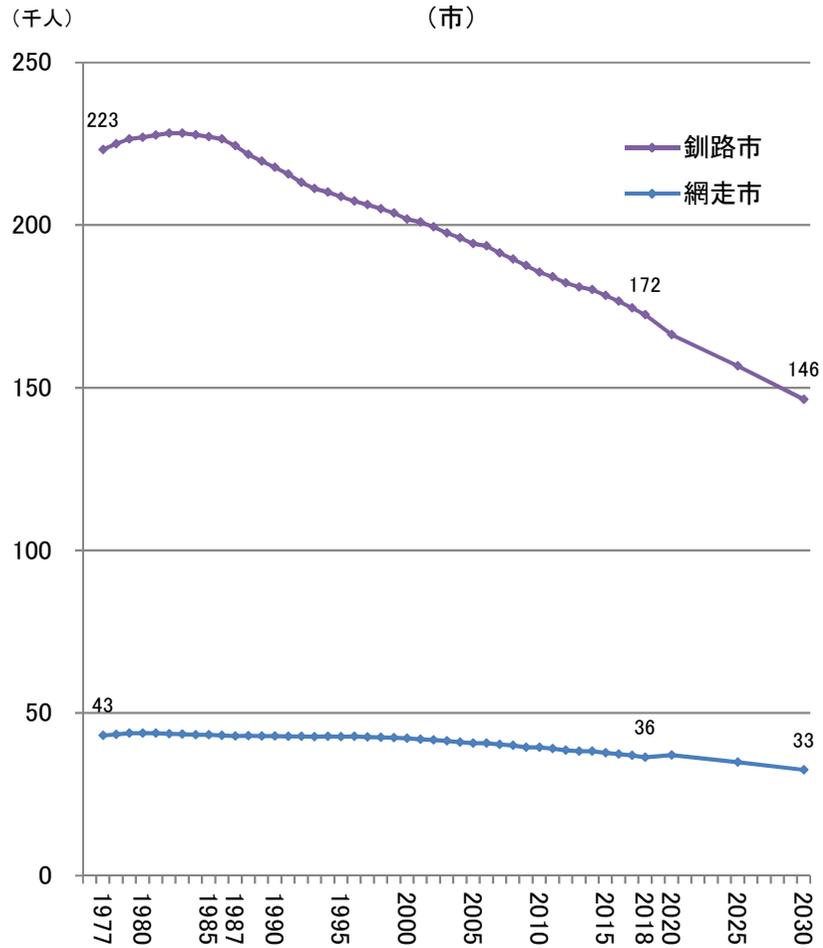
釧網線(釧路～網走間)の関係市町村の総人口は、約26.5万人(2018年)である。

その推移をみると、全体的に減少傾向が続いており、JR北海道発足時(1987年)と比較すると、2018年で21.2%減少し、2030年(推計)では33.2%減少が見込まれる。

年齢別では、年齢別人口が公表された2002年と比較すると65歳以上が増加しており、2018年で47.7%増、2030年(推計)では49.8%増が見込まれている。一方で、通学定期の主な対象者である15～19歳は2018年で-36.9%、2030年(推計)では-55.4%と半減することが見込まれている。

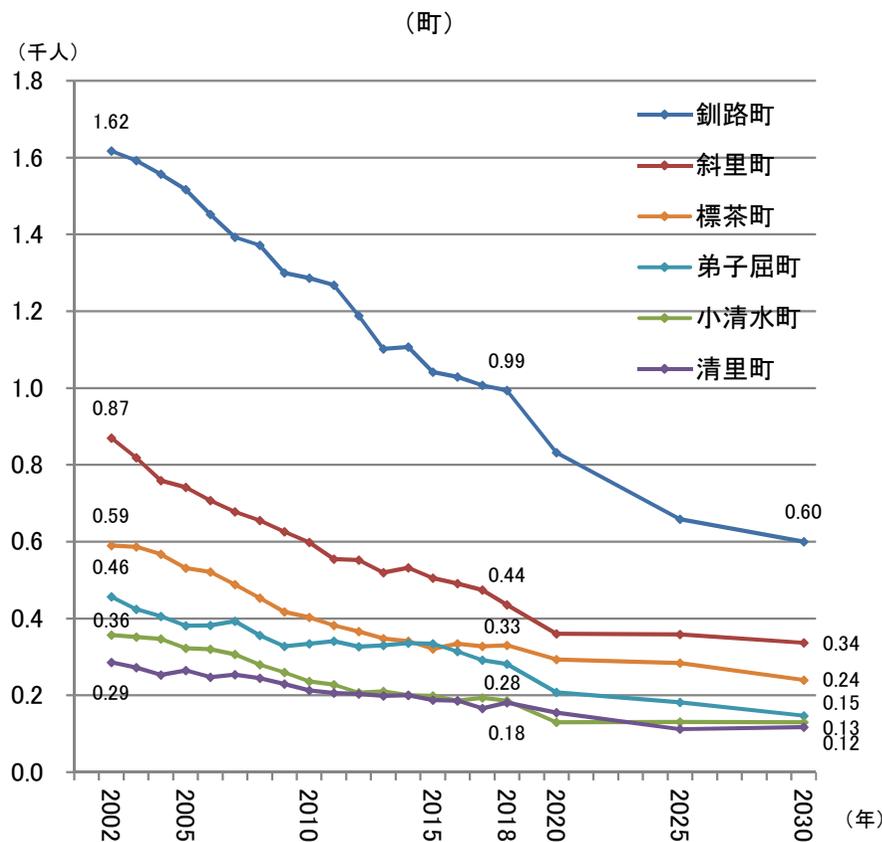
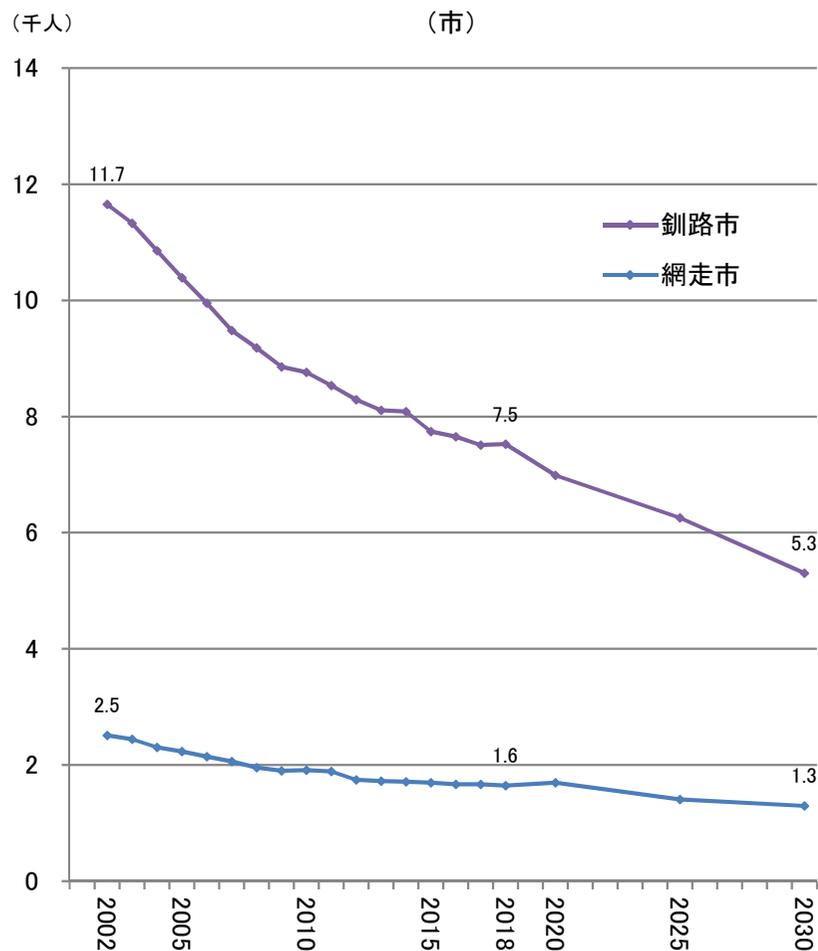
市町別では釧路町を除く市町で人口が減少しており、今後も減少が予測されている。また釧路町も2003年以降は減少に転じている。15～19歳の人口は、各市町村とも大幅に減少しており、今後もさらに減少することが予測されている。

②市町村別人口の推移



(出典)
 ・2018年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移



(出典)

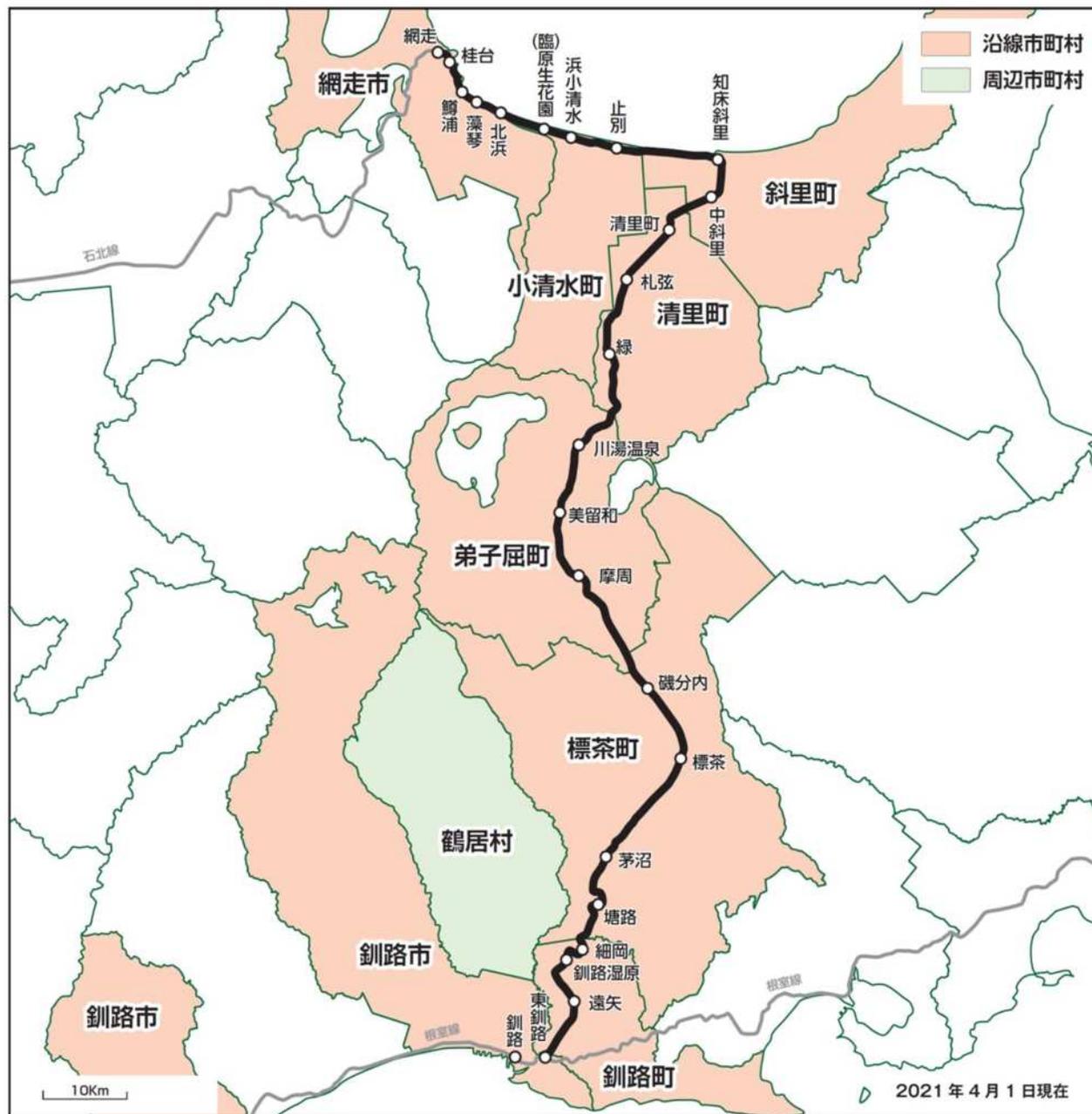
・2018年以前 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】

・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】

※2005年以前の釧路市には阿寒町・音別町の実績を含む。

(2) 釧網線(東釧路～網走間) の状況

①沿線地図



②沿革

- ・ 釧網線東釧路・網走間は網走線として建設され、段階的に開業しながら、1931年（昭和6年）に開業しました。全線が開業して90年を経過しています。主な開業年と開業区間は下表となっています。

開業年	開業区間
1924(大正13)	網走～北浜
1925(大正14)	北浜～斜里(現知床斜里)
1927(昭和2)	釧路～標茶
1929(昭和4)	標茶～弟子屈(現摩周)、斜里～札鶴(現札弦)
1931(昭和6)	弟子屈(現摩周)～札鶴(現札弦)

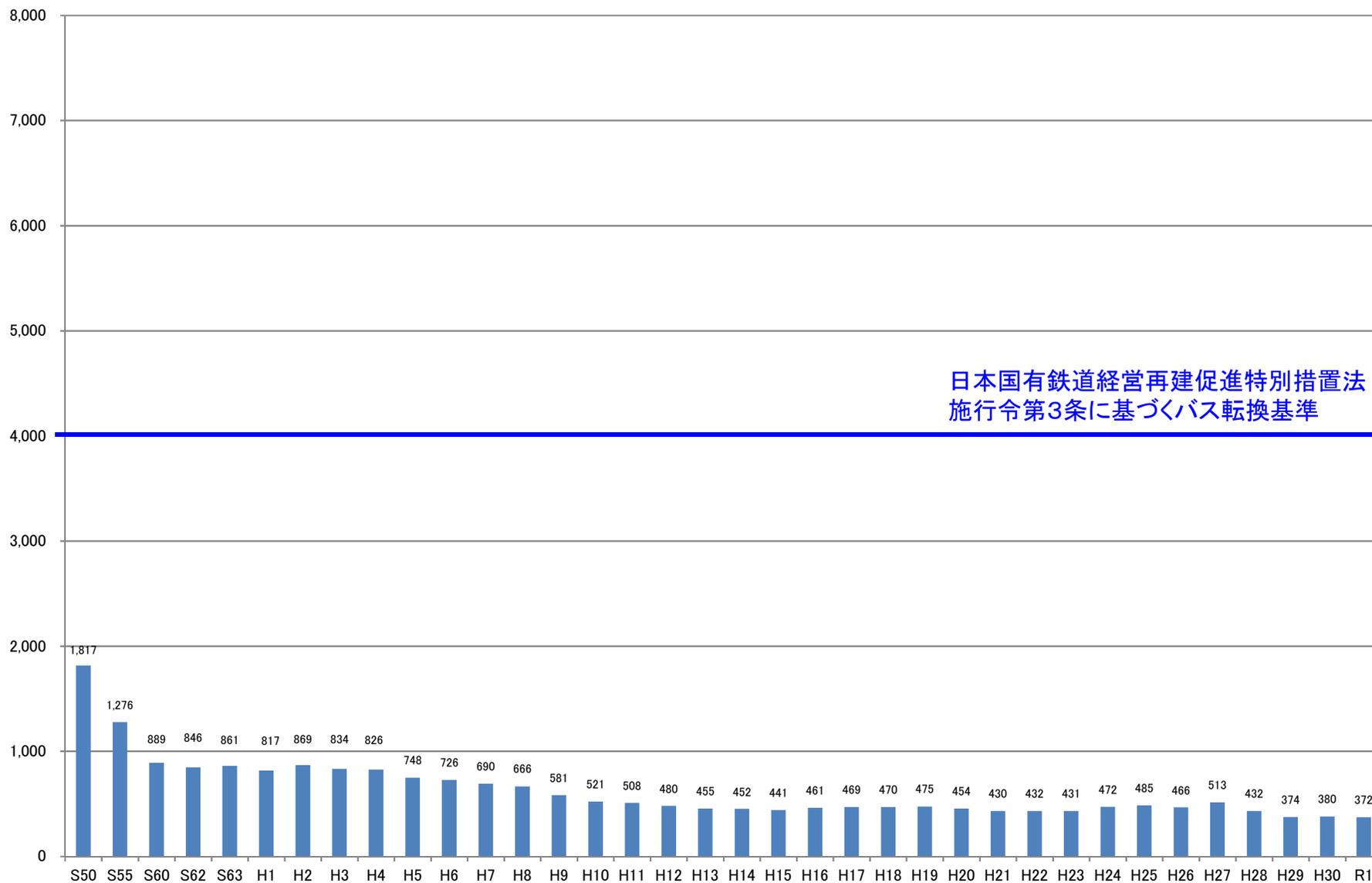
③諸元(2021年4月1日現在)

- ・ 区間 東釧路～網走
- ・ 営業キロ 166.2km
- ・ 列車本数 上下18本
- ・ 駅数 24駅 (うち有人4駅) (うち臨時1駅)
- ・ 沿線自治体 釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、清里町、斜里町、小清水町、網走市

④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

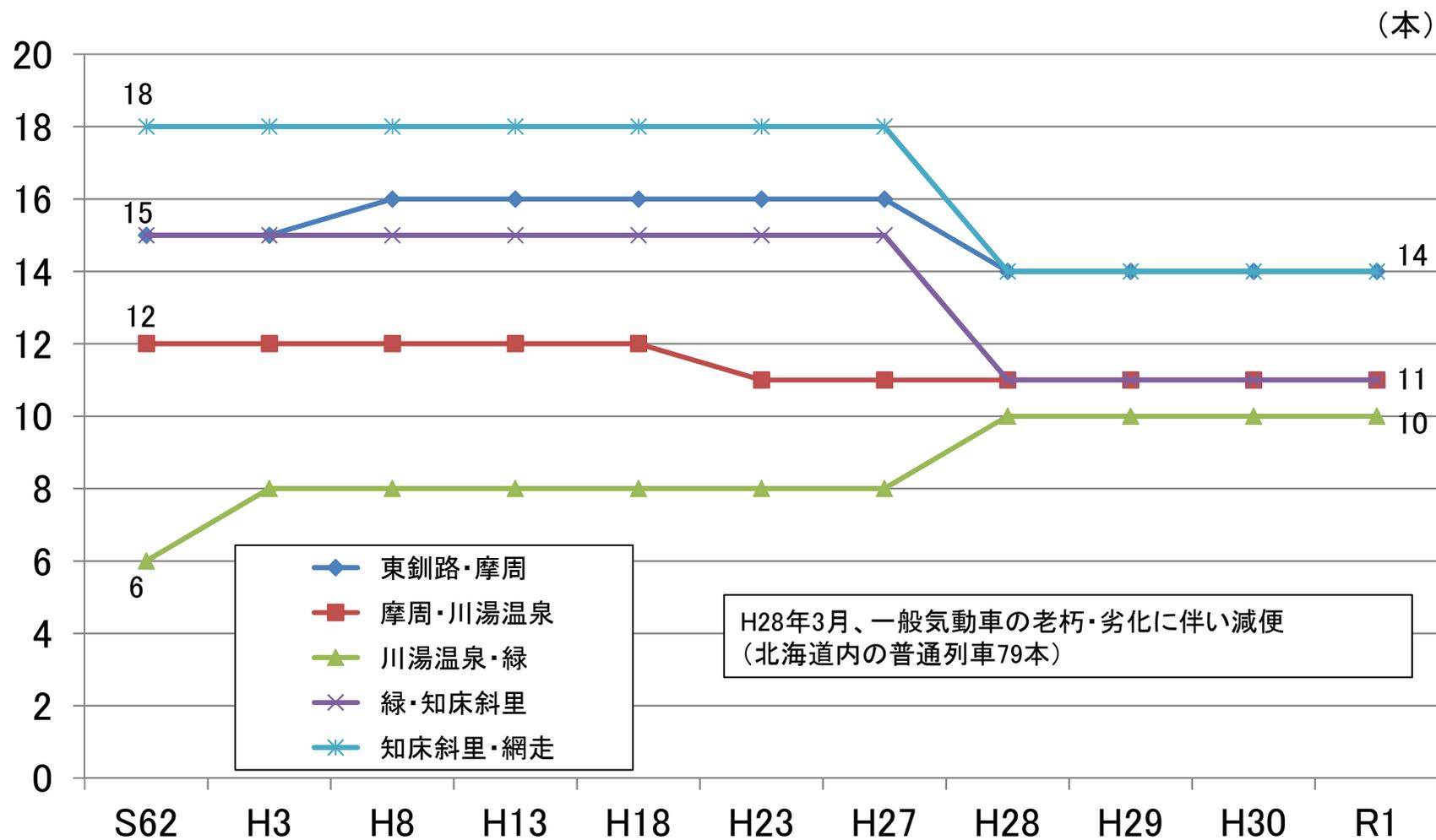
■ 釧網線(東釧路・網走間) (昭和50・55・60年度、昭和62年度～令和元年度)

(人/キロ/日)



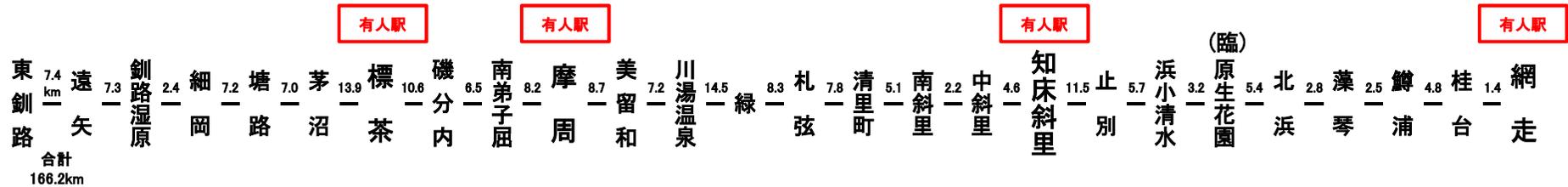
⑤定期列車本数の推移(各年4月時点の本数)

■釧網線(東釧路・網走間)

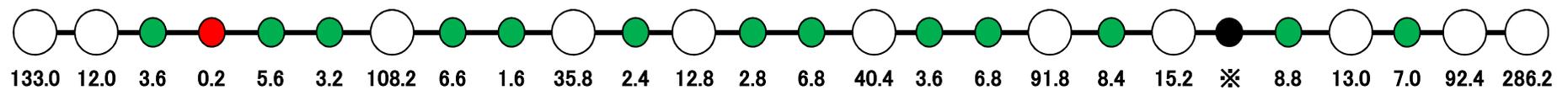


⑥ 駅別乗車人員 (特定日調査(平日)に基づく)

■ 釧網線(東釧路・網走間)



駅別乗車人員 (H27-R1の5年平均)



乗車人員 1日平均

- 1人以下
- 10人以下
- 10人超
- ※データなし (臨時駅のため)

南弟子屈駅は令和2年3月14日に廃止しております。

⑦列車別乗車人員(令和元年度特定日調査(平日)に基づく)

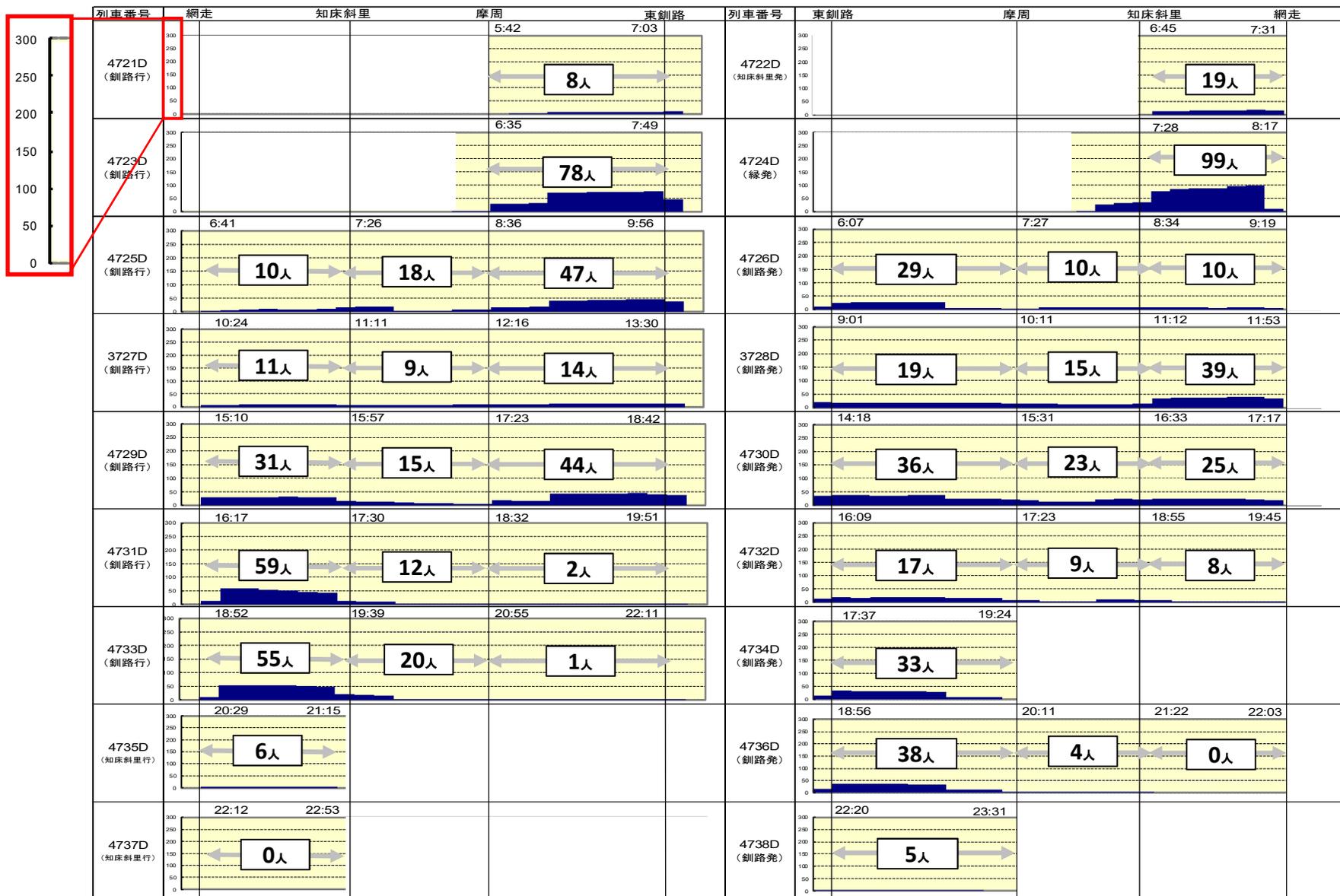
■釧網線(東釧路・網走間)

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車(網走⇒東釧路)

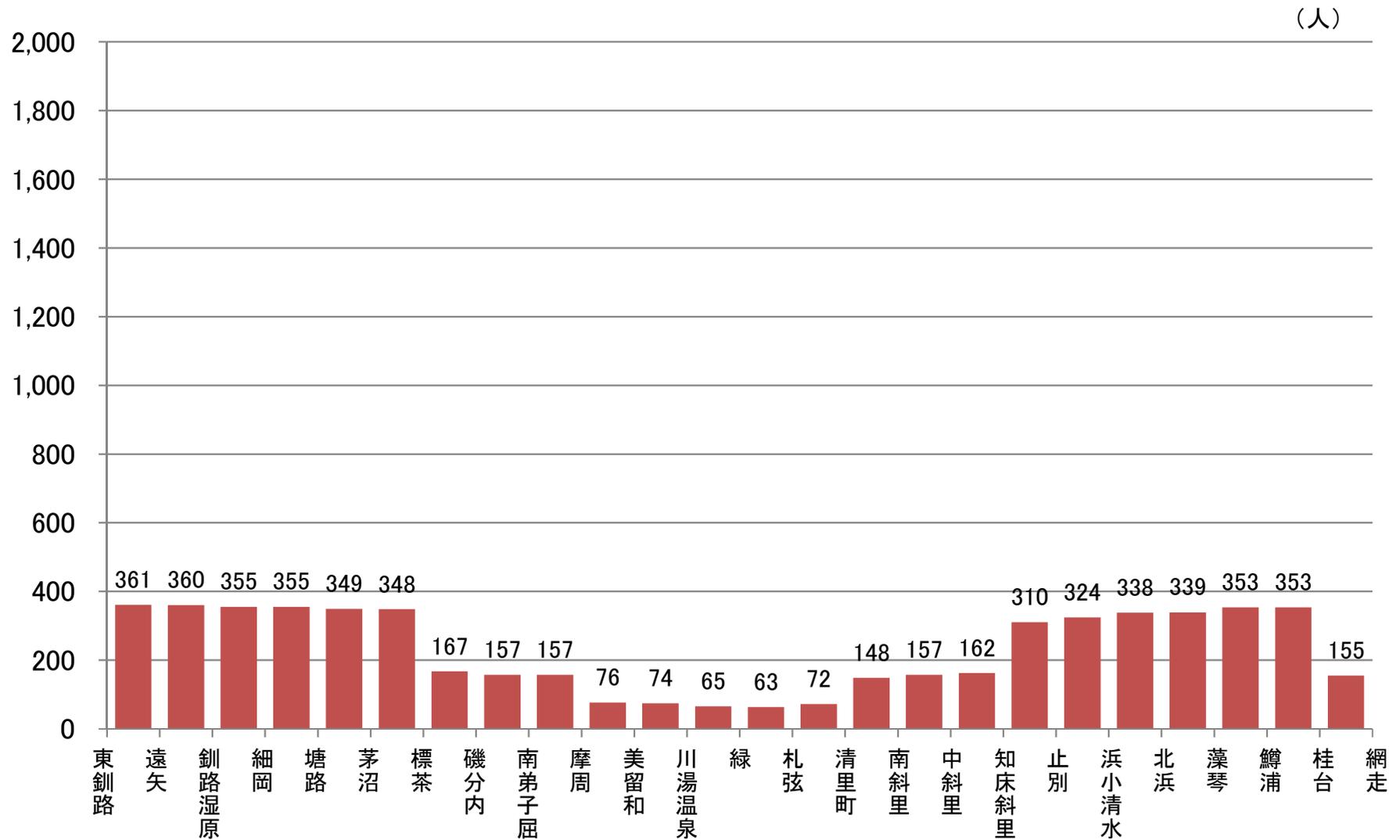
◆上り列車(東釧路⇒網走)

(人)



⑧ 駅間別乗車人員(令和元年度特定日調査(平日)に基づく)

■ 釧網線(東釧路・網走間)

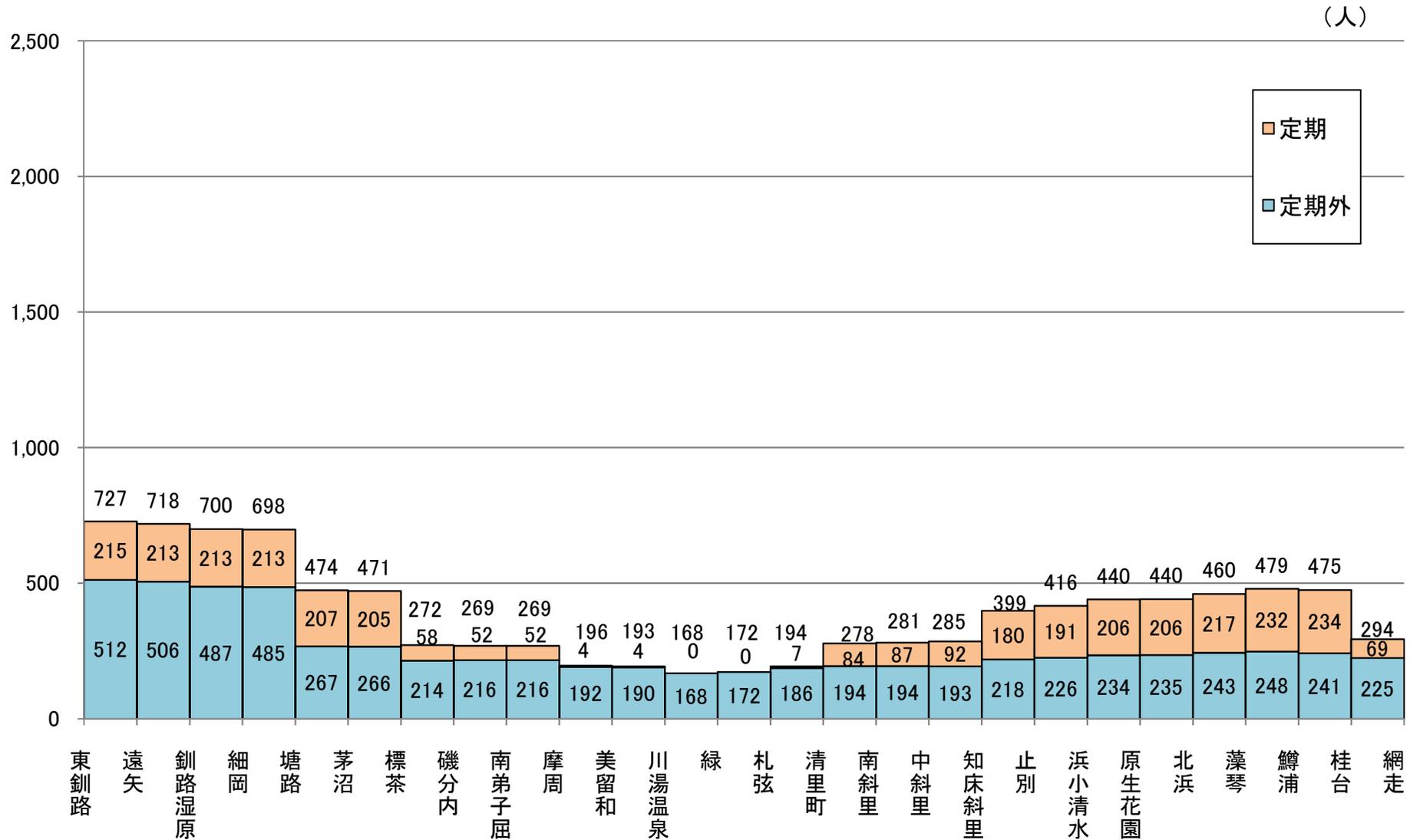


※原生花園駅は調査当日、営業期間外のため記載していません。

※南弟子屈駅は令和2年3月14日に廃止しております。

⑨ 駅間通過人員 [1日あたり平均(令和元年度)]

■ 釧網線(東釧路・網走間)



※端数処理のため合計値が合わない場合があります。
 ※南弟子屈駅は令和2年3月14日に廃止しております。

⑩定期券発売枚数 (令和元年度)

■ 釧網線(東釧路・網走間)

(単位:枚)

	釧路	東釧路	遠矢	釧路湿原	細岡	塘路	茅沼	標茶	磯分内	南弟子屈	摩周	美留和	川湯温泉	緑	札弦	清里町	南斜里	中斜里	知床斜里	止別	浜小清水	原生花園	北浜	藻琴	鱒浦	桂台	網走	(網走区以外)	合計	
線区外(釧路以遠)			1.8					5.7																					7.5	
釧路			3.3			4.7	1.0	33.5	1.1		13.9															0.3	0.3		54.2	
東釧路								34.1			5.0																		39.1	
遠矢								0.2			1.0																		1.2	
釧路湿原								3.7																					3.7	
細岡																														
塘路								1.8																					1.8	
茅沼																														
標茶									1.1		3.4		1.8																6.3	
磯分内										0.1																			0.1	
南弟子屈																														
摩周																														
美留和																														
川湯温泉																														
緑																														
札弦																1.0			0.5							2.1			2.1	
清里町																		0.7	10.8					0.8	19.4	6.5		38.3		
南斜里																			0.3						1.0			1.3		
中斜里																										1.0		1.3		
知床斜里																			0.3							2.8		2.8		
止別																				0.8	1.6			0.6	0.1	36.6	14.8	54.4		
浜小清水																					0.9			0.1	0.4	0.3	0.3	2.1		
原生花園																										4.2	1.8	5.9		
北浜																										4.2	5.8	10.0		
藻琴																														
鱒浦																														
桂台																														
網走																														
合計			1.8		4.7	1.0	78.7	2.2	2.2	0.1	22.3	1.8	1.8		1.0	0.7	11.1	0.8	1.6	0.8	1.6		1.4	0.1	81.2	32.2	0.1	241.4		
			3.3				1.2	0.8	0.1	1.8	0.1					1.2				0.9			0.3	0.4	1.6	1.9	0.3	14.8		

凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数
 ※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

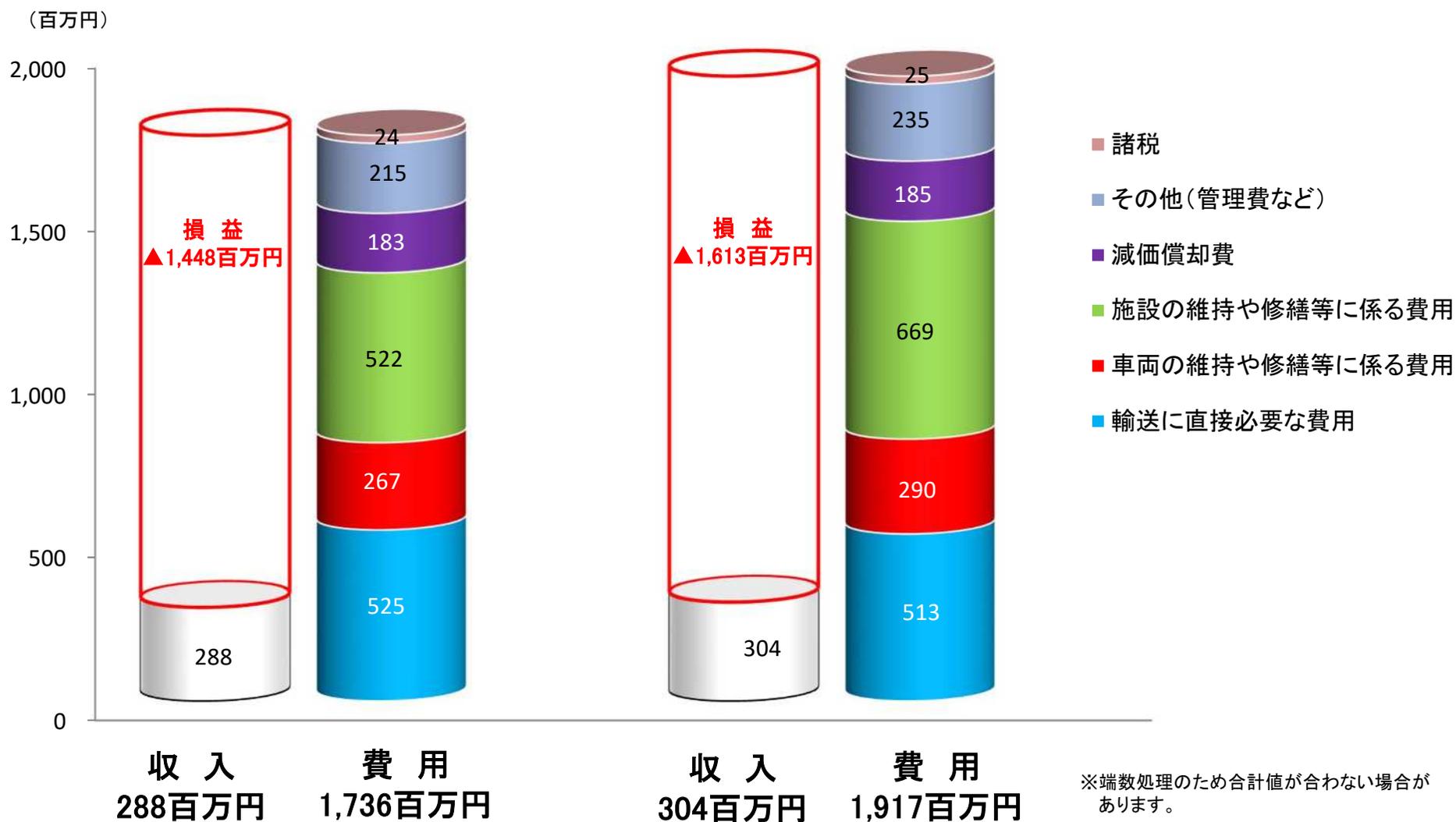
※南弟子屈駅は令和2年3月14日に廃止しております。

⑪線区別収支

■釧網線(東釧路・網走間)

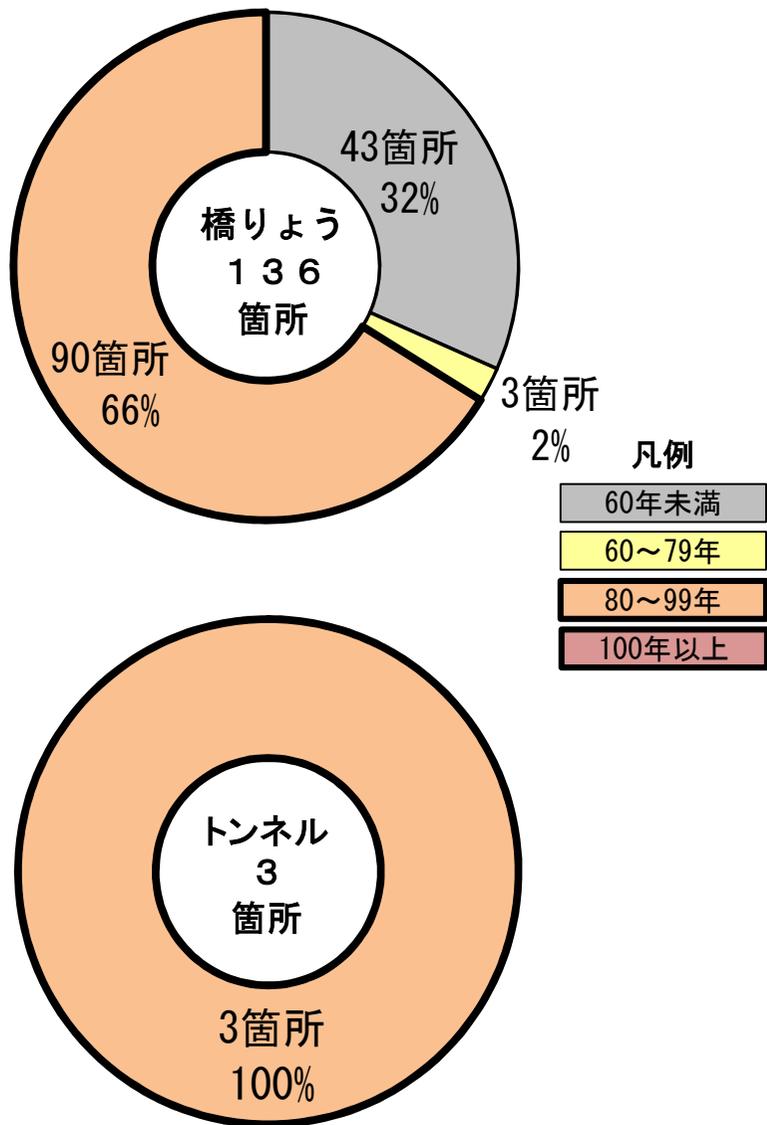
【平成30年度】

【令和元年度】

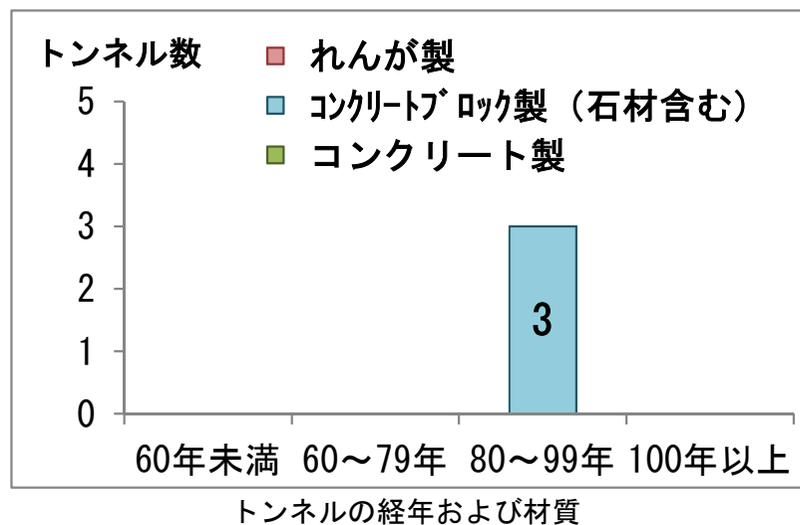
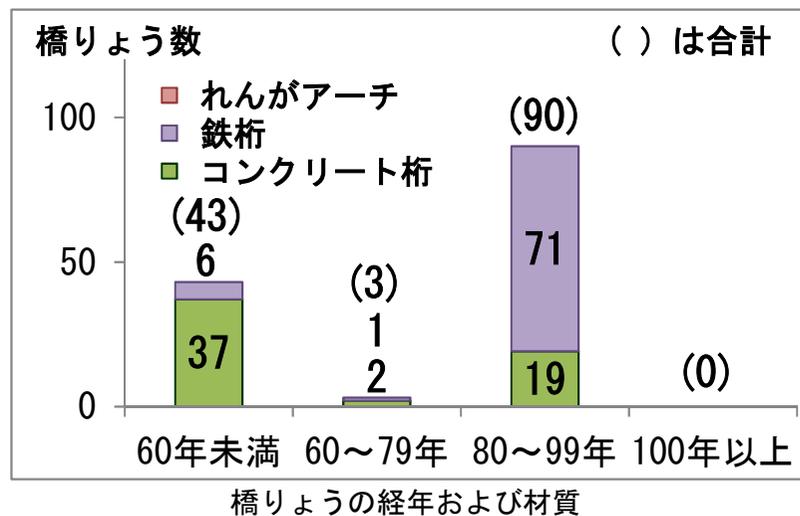


⑫土木構造物の概況

■釧網線(東釧路・網走間)



※平成29年1月現在



(大規模修繕・更新の一例)

○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

釧網線 東釧路・網走間: 8 億円

- ・ 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- ・ 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例: 根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

釧網線 東釧路・網走間: 3 億円

- ・ 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- ・ 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分(支承部)の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例: 石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

(大規模修繕・更新の一例)

○ トンネル

【覆工材料の劣化・剥落対策】

釧網線 東釧路・網走間: 20億円

- ・ れんが等で造られた古いブロック積みトンネルは、ブロック本体およびブロック同士をつなぐ目地材料の劣化が進んでいる
- ・ れんが等の覆工材料の剥落を防止し、トンネルの寿命を延ばすため、覆工の改築・補強工事を実施



ネットによる
落下防止

劣化したれんがトンネル

(例: 石北線 生田原・西留辺薬間 常紋トンネル)

⑬土木構造物の大規模修繕・更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

設備概況	費用内訳(単位:億円)					
	種別	数量	項目	数量	費用	計
釧 網 線 東 釧 路 ・ 網 走 間	橋りょう	136橋	①鋼橋の腐食対策	78橋(128連)	8	11
			②鋼橋の亀裂対策	26連	3	
	トンネル	3箇所	覆工材料の劣化・剥落対策	3箇所	20	20
	経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加				2	2
	計				33	33

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

⑭車両の更新費用

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる車両の更新費用

1 車両の現状及び更新の考え方

- ・ 全車両が更新時期を迎えるため、新製車両への更新が必要
- ・ 一般用の新製車両については、現在試作車を製作中である電気式気動車を想定

2 今後20年間の車両更新費用

1の考え方に基づき算出した今後20年間の車両更新費用は以下のとおりです。
なお、更新車両数は平成29年4月時点のダイヤを前提として算出しています。
また、観光列車用（ノロッコ号、SL等）の車両は含んでいません。

(単位:両、億円)

線 区	更新車両数	車両更新費用
釧網線(東釧路～網走間)	8	16

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。